

緑のまきば

2016年 No.49

小金井緑町教会

小金井市緑町四一六一三三

☎042-381-7961

牧師 山畑 謙

説教

常に喜べ、とは

山畑 謙

2016年度
の聖句

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」
(1テサロニケ 五・一六〜一八)

信仰の道を歩めば歩むほどに、この二〇一六年度の聖句は、実に居心地の悪さを生じさせます。私たちは、いつも喜ぶどころか、不平や不満をつぶやいて不機嫌でいることの方が多からずです。祈ることも、絶えずどころか、数えるほどしか日々祈っていない。感謝することも、感謝より、要求や願いが口をついて出てきます。なんとも情けないとしか言えない。居心地が悪くなるのです。

では、改めて、いったいいつ私たちが喜んでいられるのでしょうか。それは何かをもらった時、褒められた時、勝利した時、そして試験などに合格して未来が開けた時等。結構、ないようであるものです。その中で、褒められたり評価されて、嬉しくなったり喜ぶ時に、私たちは自尊心が高められることになるとも言えるでしょう。努力して評価されるのは尊いことです。そこに自尊心も養われてくるのも事実です。しかし気をつけなければ

ばなりません。それは人からの評価や褒め言葉で喜びながら、いつの間にかそれに依存してしまう落とし穴があるという事です。褒めてもらえなかったら、いい結果を出せなかったら、勝利しなかったら喜ばないということになり、自尊心が損なわれていく負のスパイラルに陥りかねません。人からの評価に依存している自尊心とそこにある喜びは、ささいなことでも揺れ動き、失われてしまうことでしょうか。いつも喜んでいなさいと言われている喜びとは、人や世の評価に左右されないで喜ぶ喜びではないでしょうか。

「いつも喜んでいなさい」と言われている「喜び」を知るには、主イエスを見るのが一番です。ヨハネによる福音書の一七章に、最後の晩餐の時の主イエスの祈りが記されています。その中にこういう言葉があります。「今、わたしはみもとに参ります。世にいる間に、これらのことを語るのには、わたしの喜びが彼らの内に満ちあふれるようになるためです。」(13) 主イエスにおいて見出される喜び、それは仕えるところに溢れ出てくる喜びです。仕えることの究極の姿が十字架です。十字架の苦しみを前にしながらも、その十字架によつ

て愛する弟子たちが罪の赦しを得、とこしえの命に生きる幸いを確信して、主は喜ばれていました。その主の姿から、仕えるということとを、「アシスト」という言葉で言い表したいと思えます。アシスト(Assist)を辞書で引きますと、「(目)人の仕事を補佐すること。(月)サッカーなどで、シュートする選手に適切なパスを送ってゴールインを助けること。また、それを行う選手。」とあります。エースが勝利するために仕えて働く時、そのエースが勝利した時に、アシストも大きな喜びを得るのです。

私たちにはアシストとして仕えて生きる喜びがあります。エースは主イエスであり、神さまです。エースである主イエスが、究極の仕える業として十字架を負い、すべての罪を赦してくださいます。その苦難の中にも喜びがあるとされています。主は、何度でもこの原点に立ち帰らせてくださいます。隣りに仕える事を通して、喜ばない苦難をも乗り越えていく道が開けていき、そこに不思議な喜びが静かに湧き溢れてくるでしょう。